

◆京都大学未来フォーラム（第24回）

「私の本格ミステリ観 ―“新本格ムーヴメント”と京大推理小説(ミステリ)研究会―」



講演概要

1987年発表の拙著『十角館の殺人』を契機として、日本の推理小説シーンではいわゆる“新本格ムーヴメント”が始まった。それまで長らく過去の遺物的存在と見られがちだった「本格ミステリ」を復興させよう、という動きで、その一翼を担ったのが綾辻ほか、法月綸太郎、我孫子武丸、麻耶雄嵩ら、京大推理小説研究会出身の若手作家たちだった。ムーヴメントはやがて、本格ミステリの「第三の波」と呼ばれる一大潮流を形成しながら、現在に至る。―といったこの19年を振り返りつつ、自身の本格ミステリ観や創作法をお話したい。これからミステリ作家を志そうという人の指針にもなれば、と思う。

日時と場所	平成18年9月21日（木曜日） 18時15分～19時45分（開場17時30分） 京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール
参加費用	無料
定員	先着500名（申込みによる先着順）
対象	学生・教職員及び一般の方々
申し込み	当ページ申込フォームまたは往復はがきにて下記までお申し込みください。 なお、往復はがきによる申し込みについては、「第24回未来フォーラム参加」と明記の上、住所、氏名、職業、連絡先を記入し、返信はがきには、必ずご自身の宛先を記入してください。
問い合わせ先	〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総務部社会連携推進課 TEL 075-753-2285（月曜日～金曜日 9時～17時） http://www.kyoto-u.ac.jp/top2/11-top.htm E-mail: kinen52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
主催	京都大学
後援	（財）京都大学教育研究振興財団

講師略歴

1984年3月 京都大学教育学部卒業
1989年3月 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了
大学院在学中の1987年、『十角館の殺人』（講談社）で作家デビュー。1992年、『時計館の殺人』で第45回日本推理作家協会賞受賞。「館」シリーズを中心とする本格ミステリで人気を博す一方、『眼球綺譚』（集英社）、『最後の記憶』（角川書店）等、ホラー小説にも意欲的に取り組む。

1999年からは、大阪在住の作家有栖川有栖と共同で、視聴者参加型犯人当てTVドラマ「安楽椅子探偵」シリーズ（朝日放送）の原作を担当。現在までシリーズ6作を数える。

漫画家佐々木倫子との合作による鉄道ミステリ漫画『月館の殺人』（小学館）を今春完結させた。

著書に『霧越邸殺人事件』（新潮社）、『暗黒館の殺人』（講談社）ほか多数。